

---

# FULL MOON

高室ユキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

FULL MOON

### 【Nコード】

N7671C

### 【作者名】

高室ユキ

### 【あらすじ】

ある満月の夜。美しき月に魅入られた一羽の白き鳥はとあるビル  
の屋上に降り立つ…。《中秋の名月》をテーマに怪盗キッドと月の  
お話です。連載『DOUBLE』シリーズとは別軸です。

(前書き)

《中秋の名月》を含めここ数日の満月を見たときにふと思い浮かびました。ありきたりなお話かもしれませんが、感想・評価お待ちしております。作中の女神セレネはギリシャ神話の月神になります。

午前一時。

ほとんどの人間が既に眠っているだろう深夜、とある廃ビルの屋上に音もなく降り立つ白い影。

タキシードにマント、そして被っているシルクハットまで全てが白という闇の中でも目立つ格好をしたその人物は、ポケットに手を入れたままの絶妙なバランス感覚でフェンスの上に立っている。

眼下には不夜城が作り出すイルミネーション。夜でも消えることのない輝きに地上にいたときは煩わしさすら感じたものだが、見るものは同じはずなのにここから見る景色は何もかもが違って見える。ひとつひとつの灯りが見事に煌めき、まるで宝石の海のような。

それを独り占め出来ることに喜びを感じてしまうのは職業柄、自分が数多の宝石あまたを目にしているからだろうか。

全身に白を纏うこの人物の名は怪盗1412号、だがその姿を見た世間の人々は彼をこう呼ぶ。

『怪盗キッド』と。

彼は今、最も世間を騒がせている大泥棒。

予告状を送りつけ、狙った獲物は必ず盗むその大胆不敵な犯行手口や予告日が決まって月夜の晩であることから『平成のアルセーヌ・ルパン』『月下の奇術師』の異名を持つ。

空を見上げれば彼が持つその異名通り、見事なまでの満月が煌煌こうこうと輝いていている。

中秋の名月。

月明かりは優しくキッドを照らす。その幻想的な光景はまるで、月そのものがキッドを護っているかのようだ。

怪盗キッドは月の女神の守護を受けし者。

今夜は犯行予告日ではないにも関わらずこうして白いステージ衣装に身を包んでいるのは、あまりに月が美しく思わず魅入られてしまったからだ。

「月に魅入られる人間の気持ちか。わからなくもないな……」

ぼつりと呟いた言葉も風に溶けて消える。

月の女神に護られながら、キッドが求めるのは全てを与えられし禁断の名を持つ女神。

## 《パンドラ》

この世界に散らばるビッグジュエルにただひとつだけ、開けてはならない禁断の女神が眠っているとされているとされている。

見付かる確率は何億分の一と言う気の遠くなるような数字。これまでただ、それだけを求めていくつも夜を駆け抜けてきた。

盗んだ宝石の数だけ今夜も違うと落胆の息を吐く。

一体いつになったら見付かるのか……。

出口の見えない真っ暗なトンネルの中、足元すら確かに見えぬまま進み続ける自分。

求めるものは幻の逸品。

伝説だけが手掛りのそれは雲を掴むかのように不確実なもの。  
キッドは頭上の名月を仰いだ。そしてゆっくりと手を伸ばす。  
月の光を全身に浴び、その神秘の力を与えてもらうかのように。

「女神セレネ、どうかオレに力を……」

《パンドラ》を見付けるまで。  
キッドの祈るような言葉に答えるかのように、一瞬月の光が淡く、  
だが強く輝いた。

それを見逃さなかったキッドが一瞬目を見張り、そしてその口元  
がゆるりと笑みの形を作る。

大丈夫だ。

まだ、やれる。

まだこの空を飛んで行ける。

先の見えない道に少し疲れていた。

見付かると信じてはいるがその信念すら、度重なるハズレくじに  
揺らいでしまうことがある。

そんなときだった。

ふと見上げた空に浮かぶ月があまりに美しく綺麗で……もっと近  
い場所でその月を見たいと思った。

気付いたら白い衣装を身に纏い、翼を広げて空を飛んでいた。

怪盗キッドと月は切っても切り放せない関係にある。《パンドラ》  
を見付けるために月は必要不可欠なもの。

だからこそ少しばかり折れそうになった自身の心を、月に力を与  
えてもらうことで取り戻したかった。

そして月は自分に力を与えてくれた。

もう、迷いはない。

キッドはゆつくりと目を閉じた。そして次に開いたキッドの目には既に何の迷いもなく、いつもの怪盗が持つ強く鋭い光が灯っていた。同時に口元に浮かぶ自信に満ちた不敵な笑み。

これこそが日本警察を手玉に取り、『月下の奇術師』と謳われる世紀の大怪盗 怪盗キッド。

彼の本来の姿だ。

「さて、明日も早いことだし帰りますか」

明日は怪盗キッドの犯行予告日。

《パンドラ》へ一歩でも近付くために。その為には今の自分に足を止めている暇はない。

進む先が今はまだ変わらず闇の中でも、いつか必ず光は射すそう信じて……。

怪盗キッドはこれからも幾度の夜を翔けて行く。

びゅうつと強い風が吹いた。

次の瞬間には屋上のどこにもキッドの白い姿はなく、ただ月明かりが淡い光を放つばかりであった。

(後書き)

こんにちわ、高室ユキです。今回は初短編を書いてみました。私は月を見る度に「今日はお仕事かな」と思うほどキッドが大好きです。今後も怪盗キッド(黒羽快斗)のパートナーでありオリキャラのレディ・レイリー(篠宮朱音)が出てくる連載『DOUBLE』シリーズの他、短編などでもほぼキッド絡みの話になるかと思えます。これからも頑張りますので、見て頂ければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7671c/>

---

FULL MOON

2010年10月22日00時46分発行